# 多様な地域の実情に合ったITSの社会実装を考える

## ～ 現場の実情・実例から学ぶ　岡山県真庭市編 ～

〔ご報告〕

ITS Japanでは『第3期中期計画（2016～2020年度）』※の『多様な地域の実情に合ったITSの社会実装』の具体化に向けて、基礎自治体や地域ごとのITS推進団体等との連携強化を図りつつ、『現場を知る』ことを活動の重点に据え、地域の課題や先進的な取組み、事例について、現地訪問や関係者との意見交換を中心とした活動を進めています。

（※ITS Japan第3期中期計画 http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_210/）

## 持続可能な地域構造フォーラム参加報告

去る10月16日、17日にバイオマス産業杜市を宣言する岡山県真庭市で開催された、国土交通省国土政策局の主催による『持続可能な地域構造フォーラム～集落⇔都市の新たな繋がりを考える～』に参加しましたので、その概要を紹介します。

### 1．持続可能な地域構造フォーラムのアウトライン

本フォーラムでは、真庭市内の高校生を含む200名程の参加者があり、持続可能な地域社会総合研究所の藤山所長の基調講演に続き、各地域での取組み事例の紹介がありました。

また、「集落⇔都市の新たな繋がりを考える」をテーマに、藤山所長のコーディネートによるパネルディスカッションが行われました。

◆基調講演：

「集落と都市をつなぐ～重層的な循環圏構想に向けて～」

(一社)持続可能な地域社会総合研究所　所長　藤山　浩 氏

◆取組み事例紹介：

①真庭市：「大きな里山資本主義による循環型の「回る経済」と小さな拠点に向けて」
　岡山県真庭市　建設部　都市住宅課長　今石　健司 氏

②山口市：「市民・事業者・行政の協働により育て支える公共交通」
　山口県山口市　都市整備部　交通政策課　主幹　田邊　幸治 氏

③ほほえみの郷トイトイ：「地福の地域課題解決～買物、交通、見守り、所得向上～」
　特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ　副理事長兼事務局長　高田　新一郎 氏

④高知県「県全体をカバーする集落の維持・再生の仕組み（集落活動センター）」
　高知県　中山間振興・交通部　副部長　中村　剛 氏

⑤梼原町「集落活動を支える　小さな拠点づくり」
　高知県梼原町　企画財政課　西村　新一 氏

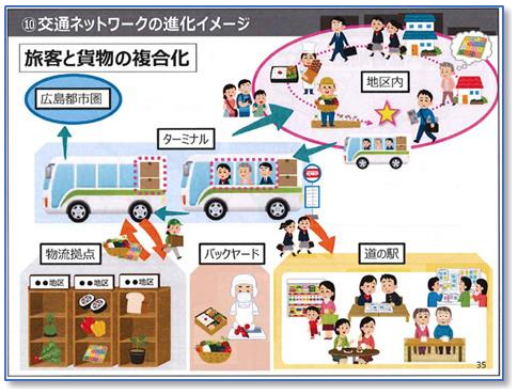
⑥ヤマト運輸株式会社「集落⇔都市物流ネットワークについて」
　ヤマト運輸株式会社　社長室　課長　関根　豊 氏

## 2．主なポイント紹介----基調講演より

日本においては、小さな拠点や、地方都市部、大都市で多様な課題（高齢化、移動手段の確保、人口流出、シャッター街の増加、交通事故、渋滞、環境問題など）に対応するために、地域構造を見直す時期にきています。

地域の移動課題解決に向けては、地域における人やモノの流れを可視化・分析してみるのも重要です。例えば、人口 3,000 人規模の地域の交通分野では、市営バス、スクールバス、通所デイ送迎、生協、郵便など様々な移動手段があるなかで、事業ごとに区切られた経営が進められており、車両の共有といった複合化は、旅客内・貨物内でも行われていません。このような地域拠点では、事業の垣根を超えて統合化、需要を束ねる事が必要です。

具体例のひとつとして、島根県益田市真砂地区では、移動困難者の対策として、野菜の集荷と福祉施設へのひとの移動、買い物支援を組み合わせた『合わせ技』として進められている事例が紹介されました。また、小さな拠点は、基礎的な一次生活圏（自治区）の結節拠点と位置づけ、小さな拠点内のヒト・モノの移動による経済循環に加え、小さな拠点から広域な地域（市内、都市）をつなぐ統合化された交通ネットワークを構築して、重層的で持続可能な地域構造に進化させたらどうかとの提案もありました。



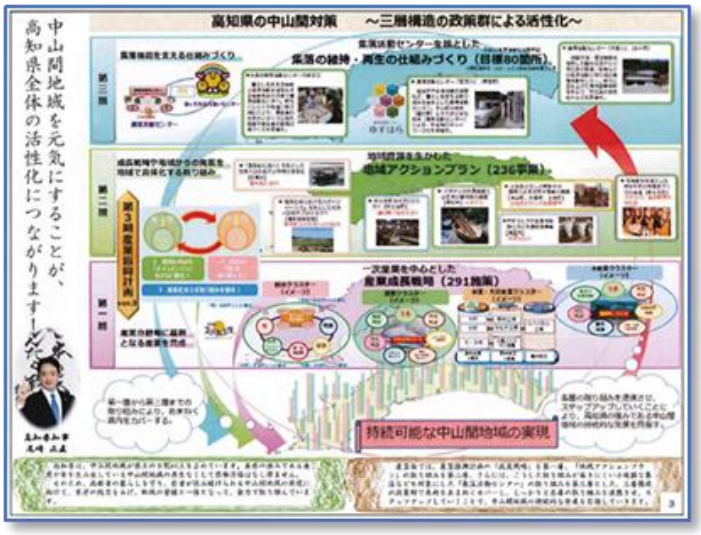

## 3．取組み事例紹介より主なポイントの紹介（抜粋）

### 1）高知県：県全体をカバーする集落の維持・再生の仕組み（集落活動センター）

高知県は中山間地域対策として、三層構造の政策群を策定し持続可能な中山間地域の実現を目指しています。三層構造の政策群は、第一層として、産業分野毎に基幹となる産業を育成する「産業成長戦略（291 施策）」、第二層として、成長戦略や地域からの発案を地域で具体化する取組み「地域アクションプラン（236 事業）」、第三層として、集落機能を支える仕組みづくり「集落活動センターを核として集落の維持・再生の仕組みづくり（目標 80 か所）から構成されています。

このうち、集落活動センター構築では、県内各地域へ県の職員 60 名を派遣しており、県が本気で集落の維持・再生に取り組んでいます。

集落活動センターとは、地域住民が主体となって、旧小学校や集会所等を拠点に、地域外の人材等を活用しながら、近隣の集落との連携を図り、生活、福祉、産業、防災などの活動について、それぞれの地域の課題やニーズに応じて総合的に地域ぐるみで取り組む仕組みです。



### ２）高知県梼原町：集落活動を支える　小さな拠点づくり

旧小学校区等を基本に、地域で生きていくための仕組みづくりとして、町内に 8 つの区で集落活動センターがあり、区の活動、区同士の横連携を梼原町、高知県が支援しています。

【代表的な事例紹介】

・松原地区では、地域からガソリンスタンドが消える危機感から、エネルギー供給過疎地としない、地域住民の暮らしを守るために地域住民の出資による運営会社を設立、ガソリンスタンド運営を引き継ぎました。

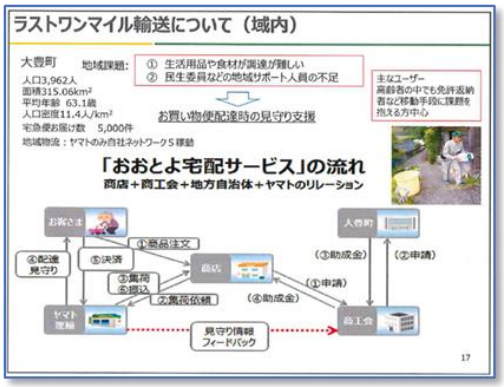
・初瀬・松原地区の共同による移動手段の確保に取り組むために、特定非営利活動法人　絆を設立し、住民による過疎地有償運送（公共交通空白地有償運送）を開始、さらに配食サービスへ活動を拡大しています。

### ３）ヤマト運輸（株）　集落⇔都市物流ネットワークについて

ヤマト運輸の一次輸送（幹線輸送）、二次輸送（ターミナル⇔地域拠点）、三次輸送（地域拠点⇔中山間地域）の物流ネットワークの取組みが紹介されました。

三次輸送（地域拠点⇔中山間地域）では、岩手県・宮崎県・北海道・熊本などで 16 社 20 路線で展開されている、バス路線の路線網維持と物流効率化による「客貨混載」や宮崎県西米良村での客貨混載プラットフォームの取組みが紹介されました。

域内でのラストマイル輸送では、高知県大豊町でお買い物配達時の合わせ技として、高齢者等の見守り支援を行う「おおとよ宅配サービス」が紹介されました。




## ３．まとめ

地域の取組みでは、地域の資源、特色を組合せて地産地消の対流型経済を作り、周辺の市町村ともつながっていく事や地域唯一のガソリンスタンドやスーパー、憩いの場等が無くなる危機感から地域住民が地域で生きていくための仕組みづくりを考え、町や県が支援する姿があり、具体的な取組みが生まれています。また、地域拠点では、地域ぐるみで事業の垣根を超えて統合化された交通サービスが始まっています。